

試験研究(事後)評価整理表

試験研究機関名 環境センター
所管課 水・大気環境課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	猪苗代湖を始めとする豊かな水環境などの保全	猪苗代湖水環境保全対策調査事業	猪苗代湖水環境保全対策調査事業	猪苗代湖における大腸菌群数増加の原因解明とその対策を講じるため、猪苗代湖の大腸菌群細菌の出現傾向等を明らかにし、猪苗代湖流域の水環境保全対策に資することを目的とした。	大腸菌群超過対策に係る調査を主とし、裏磐梯五色沼湖沼群の調査、湖沼における難分解性有機物調査、プレジャーボートによる水質への影響確認調査等を実施した。	H23	H25	B	猪苗代湖水質改善のため大腸菌群超過原因を明らかにすることは重要である。大腸菌群超過対策の効果的な施策展開するため、その原因の特定に必要な調査を効果的に実施していくことが必要である。	大腸菌群に関する検討を充実された点に関し、成果が分かりやすく記載されている。また、猪苗代湖の上流河川等についても解析を広げた点が評価される。有効な対策につなげるためのデータの分析や読み込みが望まれる。(加藤)

試験研究機関名 衛生研究所
所管課 薬務課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
2	Ⅱ-3-② ライフステージや疾病に応じた保健予防対策の充実	結核・感染症対策	結核疫学調査における結核菌DNAデジタルデータベースの構築	平成20年度から22年度まで実施したVNTR分析は有用性が実証されたことから、今後は、結核菌DNAのデータベース化を図る。これを構築することにより県域を超えた広域的なデータの共有、交換が可能となり、感染経路の解明に大きく貢献するものと思料する。現代の結核対策に極めて有効である。	結核菌の分子疫学解析でデジタルデータ表記のVNTR分析によるデータベースを構築することで、結核菌の広域的比較検討、解析を可能にする。	H23	H25	A	結核菌VNTR分析により保存菌株のDNAのデータベース化ができた。また、他県との比較もできるようになったことから広域的な結核対策に役立つことが可能となった。	迅速・正確な結果が得られるデジタル表記が可能なVNTR分析によって、施設に保存してあるすべての結核菌が解析された意義は大変大きい。他施設とのデータ共有比較を行ったこと、それによって、優れた方法が開発、選択された意義は大きい。(加藤)

試験研究(事後)評価整理表

試験研究機関名 ハイテックプラザ
 所管課 産業創出課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
3	再生可能エネルギーの研究拠点・関連産業の集積・育成	再生可能エネルギー関連産業創出プロジェクト事業	浅部地中熱利用システムの開発	浅部地中熱利用技術の開発における実証試験を効率良く進めるために、小規模な実験により要素技術を評価し、結果を実証試験にフィードバックし、早期の実用化を目指す。	小型の採熱システムを試作して、地中熱利用における採熱管の形状や配置、表面状態、熱媒体等の影響を評価し、実験住宅での冷暖房試験等の実験にフィードバックする。	H23	H25	B	ミニモデルとシミュレーションの相関を踏まえた浅部地中熱利用システムの開発により、浅部地中熱を利用した住宅建築を可能としており、概ね目的を達成している。	モデル実験やシミュレーションの結果を丁寧に解析しており、地中熱利用の関係者への貢献は大きいと思われる。耐震杭の活用を実証するなど、実用面での成果も高く評価できる。浅部の状況は場所によって大きく異なることが想定されるので、現況を把握する方法も併せて整理しておく必要がある。 本成果のような地中熱活用と地熱発電とを混同する県民が多い。住宅や小規模ビルの建設の際に地中熱活用を視野に入れてもらうためにも、一般向けの丁寧な情報発信が必要である。(佐藤)
4	県内企業の経営基盤、競争力・収益力の強化	成長産業基盤技術高度化支援事業	マルチスケールCAEによる製品開発手法の確立	材料・製品のミクロ構造を反映できるマルチスケールCAEを、新規素材・新規加工・新規処理技術に対して適用し、高度かつ効率的な製品開発手法を確立し、県内企業への技術移転をとおして競争力強化を図る。	マルチスケールCAEに関する要素技術を調査した上で、県内企業での活用を想定して取り組むべき要素技術を絞り込む。さらに、それらの要素技術について、企業の実製品への適用を図り、実用の可能性や妥当性を検討する。	H24	H25	A	マルチスケールCAE技術について、要素技術マップ作成やバーチャル環境試験の提案により、県内製造業の今後の活用が見込まれることから、目的を達成している。	設計・開発・試験に要するコストと時間を軽減することができる、優れた成果である。適用事例の説得力は高く、今後の事例の蓄積も期待できる。専門家の手法となりがちなCAEを、製造現場につないだ本成果の意義は大きいものとする。 様々な要素技術を概観できCAEを活用できる人材が産業界とコンタクトできる体制を、常に維持している必要がある。組織的な対応が求められる。(佐藤)

試験研究機関名 林業研究センター
 所管課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
4	生産力と経営力の強化による自給率と所得の向上	農林水産資源を活用した地域産業の6次化の推進	ナツハゼ増殖技術の開発と優良品種選抜	ナツハゼのクローン増殖技術を開発し、優良品種の選抜を図ることにより、果実の加工販売につながる栽培技術の体系化に資する。	これまで困難とされてきたナツハゼのさし木を中心にクローン増殖技術を開発し、野生株等の収集を行い、結実性等の面から優良品種の選抜を行った。	H21	H25	A	ほぼ実用的なレベルでのさし木増殖が可能となった。また、酸味が強く、風味及び良好な食感を有する1個体(笠石1)を優良系統として選抜することができ、目的を十分に達成した。	地域の資源を特用林産として産業への活用に向けた研究は、ふるさと創生の我が国の施策とマッチしており、大変望ましい方向である。本研究では、これまで難しいとされていたナツハゼの挿し木による増殖技術の開発に成功している。この過程で、ブラックチップを目印にして挿し穂をとるタイミングを簡易判定できる方法を見出し、普及に向けての技術貢献があったことは特に評価できる。優良品種も1種類選抜され、計画通りの目標を達成できている。 今後、単一品種の場合は自家不和合性による結果率の低下なども考えられることから繁殖動態の確認、優良品種の多品種選抜、また今回の形質評価は単年度の結果であることから、年次変動のモニタリングによる各種特性の安定性の評価を行っていくことが必要である。(河原)